

■欧州：フランス、ドイツ、英国は温室効果ガス削減目標の引き上げを支持

フランス、ドイツ、英国は 2010 年 7 月 15 日、EU が掲げる 2020 年までの温室効果ガスの削減目標（1990 年比）を現行の 20%から 30%へ引き上げることを支持する声明を共同で発表した。この表明は、フランスのエコロジー・エネルギー・持続的開発・海洋省ボルロー大臣、ドイツのレットゲン環境相、英国のヒューンエネルギー気候変動相の連署によって、各国 3 紙に掲載されたもの。温室効果ガスの削減目標の 30%への引き上げは、欧州委員会から 5 月に提案されていたものであるが、英国が当初から賛成を表明していたものの、フランスやドイツは産業界からの反対を考慮し、この提案に難色を示していた経緯がある。共同声明では、20%の削減目標では、低炭素化に向けた国際競争で中国や日本、米国などに遅れを取ってしまうだろう、低炭素社会に向けてより投資を誘導するような削減目標の設定が必要であると主張。また、経済危機で温室効果ガスの排出量が減少したことによって、20%の目標達成に見積もられた年間 700 億ユーロ（約 7 兆 7,700 億円）の費用は年間 480 億ユーロ（約 5 兆 3,280 億円）まで低減しており、30%の目標達成のためにはそれに 110 億ユーロ（約 1 兆 2,210 億円）を上乗せすることでクリアできると説明している。